

2013年11月21日
慶應義塾大学 SFC 研究所

慶應義塾大学 井庭崇研究室・大木聖子研究室 防災のパターン・ランゲージ 「サバイバル・ランゲージ」を制作

慶應義塾大学 SFC 研究所 井庭崇研究室・大木聖子研究室は、大地震への備えと地震発生時の迅速な行動を促すためのパターン・ランゲージ「サバイバル・ランゲージ」を制作しました。これは、地震への備えや地震発生時のよりよい行動について考え、コミュニケーションをはかり、実践するための新しいタイプの防災支援ツールです。「サバイバル・ランゲージ」は今後も追加・修正されますが、今回制作された22個のパターンについては、2013年11月22日・23日に東京ミッドタウンで開催される「SFC オープン・リサーチ・フォーラム」で展示・発表するとともに、ウェブ・ページ上でも公開を開始しました。ぜひご取材ください。

サバイバル・ランゲージとは

サバイバル・ランゲージは、地震への備えや地震発生時のよりよい行動について考え、コミュニケーションをはかり、実践するための新しいタイプの防災支援ツールです。防災の実践的な知恵を「小さな単位」にまとめ、それに覚えやすい名前をつけています。このような工夫により、ひとつひとつの知恵を自分の生活に取り入れたり、語り合ったりすることがしやすくなるのが期待されます。地震発生時においても、迅速な意思決定や行動ができるように、印象に残りやすい言葉やイラストにしています。

サバイバル・ランゲージは、「パターン・ランゲージ」という記述形式で書かれています（「パターン・ランゲージ」とは何かについては後述）。つまり、ある「状況」でどのような「問題」が生じやすく、それをどう「解決」とするよいか、という実践の知恵がまとめられているのです。そのひとつひとつの知恵を、専門的な呼び方で、「パターン」といいます。

具体的に例を挙げると、例えば「**備蓄の普段使い**」というパターンでは、大地震のための食糧と飲料水の備蓄についての知恵が書かれています。大地震に備えたとしても、大地震がすぐに来るとは限らないので、備蓄した食糧や飲料水が古くなってしまふことがよくあります。それでは備蓄した意味がありません。そこで、食糧や水を多めに購入しておき、それらを普段から使いながら補充していけば、常に新しい備蓄を確保することができます。



もう一つ例を挙げると、「**家具より命**」というパターンでは、地震発生時には家具は押さえずに、そこから離れるように、ということが書かれています。地震が起こると多くの人がとっさに家具を押さえます。しかし大地震の強い揺れでは、家具を人間が押さえることなどまずできず、下敷きになる可能性があります。地震の時は家具を押さえようとはせず、すぐにそこから離れることが大切なのです。もっと言えば、そもそも家具は固定しておけばよいのです。家具の固定には効果を高める方法とそうでない方法があります。これらもサバイバル・ランゲージに収められています。



このように、サバイバル・ランゲージは、地震への備えや、地震発生時の行動についての知恵を、小さな単位でまとめたものです。そして、その小さな単位のパターンに、「備蓄の普段使い」や「家具より命」とい

うような、覚えやすく印象に残りやすい名前がつけられていることにも特徴があります。これらの言語化によって、個々人が記憶・想起しやすくなるだけでなく、防災のコミュニケーションも活性化されることが期待されます。

今回発表する 22 パターンについて

今回発表するサバイバル・ランゲージには、22 個のパターンあります。サバイバル・ランゲージの使い方を紹介する No.1 の後は、【備えのデザイン】、【緊急行動のデザイン】、【地震直後のデザイン】という 3 つのカテゴリに属するパターンが続きます。

1. パターン・ギフト

【備えのデザイン】

2. 1981 ライン / 3. 収納地帯 / 4. 安眠の領域 / 5. ドア・スペース / 6. 逆 L 字固め / 7. 噛みつき固め / 8. テレビの根作り / 9. 余分買いの備蓄 / 10. 備蓄の普段使い / 11. 救命バール

【緊急行動のデザイン】

12. 家具より命 / 13. 忘火 / 14. ダンゴムシ・ポーズ / 15. もぐりつき

【地震直後のデザイン】

16. キック・シグナル / 17. 逃騒リーダー / 18. そのときどきの判断 / 19. 駆け込み神社 / 20. ビニール・トイレ / 21. オフ・ブレーカー / 22. あの手この手の連絡



パターン・ランゲージという記述方法

パターン・ランゲージは、建築家クリストファー・アレグザンダーが提唱した知識記述の方法です。アレグザンダーは、町や建物に繰り返り現れる関係性を「パターン」と呼び、それを「ランゲージ」(言語)として共有する方法を考案しました。彼が目指したのは、誰もがデザインのプロセスに参加できる方法でした。ある「状況」で生じる「問題」をどのように「解決」すればよいのかという「デザインの知」を記述するパターン・ランゲージの方法は、ソフトウェア開発や、創造活動一般を支援する方法として広がっています。

慶應義塾大学総合政策学部 井庭崇准教授は、パターン・ランゲージの方法を創造的な人間行為の支援に応用し、国内外で先導的な立場で研究・実践を進めています。これまでに制作した主なものとしては、創造的な学びを行うための「ラーニング・パターン」、創造的なコラボレーションを実現するための「コラボレーション・パターン」、創造的なプレゼンテーションをつくるための「プレゼンテーション・パターン」、「いきいきと美しく生きる」ための「Generative Beauty Patterns」などがあります。このうち、プレゼンテーション・パターンは書籍としても出版されており、本年度のグッドデザイン賞を受賞しています。

今回の「サバイバル・ランゲージ」は、パターン・ランゲージのまったく新しい応用領域として、今年北米と南米で行われた国際学会 (COINs2013, PLoP2013, PUARL2013) においても高い評価を得ています。

展示・発表と今後の情報

サバイバル・ランゲージは、2013年11月22日(金)・23日(土・祝)に東京ミッドタウンで行われる「慶應義塾大学 SFC Open Research Forum (ORF)」にて展示・発表します。

B04 ブース(井庭崇研究室)

「創造社会へのパスポート 状況に応じて臨機応変に行動する」



ORF についての詳細は、<http://orf.sfc.keio.ac.jp/> をご覧ください。

「サバイバル・ランゲージ」ホームページ: <http://ilab.sfc.keio.ac.jp/survival/>
サバイバル・ランゲージの全パターンを公開しています。

Facebook ページ: <https://www.facebook.com/SurvivalLanguage>
サバイバル・ランゲージに関する最新情報をお届けします。

*ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

*本リリースは新聞各紙社会部、web ニュース等に送信させていただいております。

このプレスリリースに関するお問い合わせ先

慶應義塾大学 SFC 井庭崇研究室・大木聖子研究室 Survival Language Project

プロジェクト・リーダー: 古川園 智樹(ふるかわその ともき)

プロジェクト・メンバー: 元井 実祐

スーパーバイザー: 井庭 崇(総合政策学部准教授), 大木 聖子(環境情報学部准教授),

村井 純(環境情報学部長・教授)

E-mail: ilab-survival@sfc.keio.ac.jp

慶應義塾大学湘南藤沢研究支援センター 河越、西村

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

TEL: 0466-49-3436 FAX: 0466-49-3594 E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp

ORF 開催準備日(21日)、開催日(22日・23日)につきましては、03-3470-1206 までご連絡ください。